

市債（借入金）のあらまし

★市債残高が前年度に比べ、
6億円ほど減少!!

どうなの？
市債Q&A



Q:市債(借入金)をなぜ借りるの？

A:〈私たちの住民税が減額されている分も市債で補ってんでいます〉

市の主な収入の市税は、景気に左右されることがあり、事業に必要なお金を確保するために市債を借りています。また、災害復旧などの突発的な事業や大規模な公共事業については、市債を借りると、財政負担を均等にできますし、福岡中学校体育館など長く使われる施設については、使う人たちの負担を公平にすることができます。

特に、返済金の30～100%ほどを、後で国が地方交付税という形で支払ってくれる大変有利な市債を借りています。

平成13年度の一般会計で市が支払った返済金、およそ17億7千万円（約11億円の繰上償還分、約5億円の借換債分を除く）のうち97.1%の17億円ほどが、地方交付税という形で国から支払われています。

また、住民税減税の影響額や普通交付税の一部が市債に振り替えられており、それらの地方交付税による措置は、元利償還金の100%となっています。

Q:市債(借入金)はどれくらいあるの？

A:〈203億円ですが、およそ半分が国が支払いを約束しています〉

一般会計でみますと、繰上償還の効果もあり、平成13年度末残高は203億円と前年度末より約6億円も減りましたが、県内10市中市民一人当たり（H14.3.31現在の人口より算出）にすると2番目に多く借金をしていることとなります。

しかし、市債残高の中には、国が地方交付税という形で支払いを約束している分がおよそ102億円あり、この額を引くと残りは101億円ほどになります。また、財政調整基金、減債基金、都市整備基金などの積立金（市の貯金）が68億円ほどありますので、この額を引くと白石市の実質的な市債残高は33億円程度となります。

Q:でも市債(借入金)が多いのが心配なんだけど？

A:〈返済金が多くても地方交付税がバックアップ!それを示しているのが起債制限比率です〉

健全財政を示す指標に起債制限比率というのがありますが、白石市は全国でも低い数値となっています。白石市の場合、繰上償還を行い市債残高を抑制し、なおかつ交付税措置のある市債を多く借りています。つまり、国が負担してくれる市債が多いため、実質、白石市が負担する市債の返済が少なくなります。それで、起債制限比率がかなり低い数値になっています。

Q:比較的、貯金が多いようなんだけど、貯金をする分でもっと福祉、教育などの充実をはかれないの？

A:〈福祉、教育をはじめ、たくさんの方の事業を行っています〉

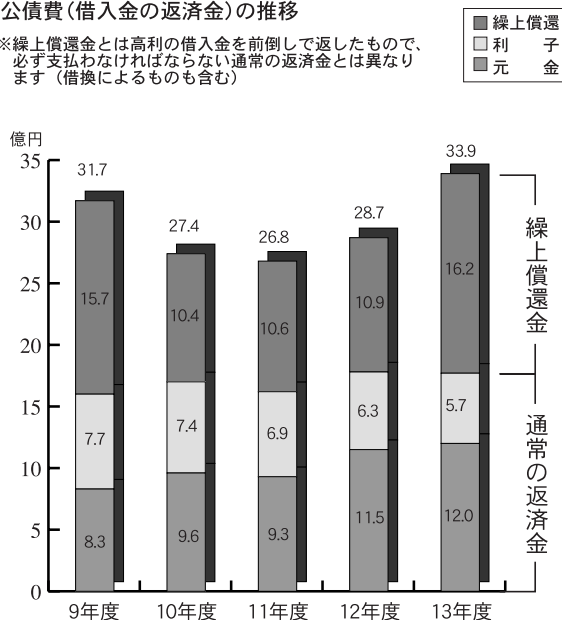
貯金を除いた市民一人当たりの支出額は、県内10市中仙台市に次ぐ2番目です。繰上償還により公債費（借入金の返済）のウエートは高いものの、それらにより将来の負担が軽減され、さらに新たな事業を行うことができるようになります。また、シルバーハウジングの建設など福祉的な要素が土木費に入っていたり、民生費を押し上げるものの中には、医療費扶助などの扶助費といった、決してその増が望ましくないものもあります。ですから、民生費などを切りつめて貯金とか総務費、公債費に充てているではありません。

また積立金には、下水道や道路整備など都市基盤整備を目的とするものや、ローン返済による負担が将来に重くのしかからないようにするためのもの、そのほか、福祉を目的とした積立金などもあり、貯金をせずに福祉、教育などに回せば、将来の世代との公平性を欠くことになるほか、予期せぬ事態に対処することもできなくなります。

民生費の中では、市独自のサービスも行っており、総務費、公債費、積立金が多いからといって、福祉、教育のサービスが他の市町村に劣るとはいえません。

●公債費(借入金の返済金)の推移

※繰上償還金とは高利の借入金を前倒して返したもので、必ず支払わなければならない通常の返済金とは異なります（借換によるものも含む）



●平成13年度市債(借入金)残高状況

※左のグラフは、市債残高に対するおおよその国と市の負担分を示したものであり、パーセンテージは地方交付税として国が負担する率です。例えば、ホワイトキューブは地域総合整備事業債を活用して整備されましたが、そのおよそ53%が地方交付税として国が負担してくれます。そのほか、減税補てん債は100%、辺地対策事業債は80%とほとんど国が負担してくれるものもあり、市債残高全体ではおよそ半分程度が地方交付税の措置があります。

